

建築工事施工結果報告書(延べ面積が500m<sup>2</sup>以下の建築物) (中間・完了)

下記のとおり建築工事施工結果を報告します。

この報告書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

年 月 日

株式会社東京建築検査機構 代表取締役社長 濱田 信彦 殿

代表となる工事監理者 住所 電話 ( )  
 会社名 ( )級建築士事務所( )登録第( )号  
 氏名 ( )級 建築 士( )登録第( )号

工事施工者 住所 電話 ( )  
 会社名 建設業の許可 大臣・知事 第( )号  
 氏名

(法人にあつては、その事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)

品質窓口責任者 氏名 電話 ( )

下記の建築工事施工結果については、工事監理者より報告を受けました。

建築主 住所 電話 ( )  
 会社名  
 氏名

(法人にあつては、その事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)

記

(1) 工事現場	①名称			工区棟	③ 工事の種類	新築・増築・改築	
	②所在地	区市				電話 ( )	
(2) 代表となる設計者	氏名		所属会社			電話 ( )	
(3) 構造設計者	氏名		所属会社			電話 ( )	
(4) 現場代理人 ( 所 長 )	氏名		(5)品質管理責任者	氏名			
(6) 階数	地上 階・地下 階	塔屋 階	(7)建築面積	m <sup>2</sup>	(8)延べ面積	m <sup>2</sup>	
(9) 構造	木造・S造・RC造・WRC造・SRC造・混構造( 造+ 造)・その他( )						
(10) 高さ	軒高	m	最高	m	(11)確認済証交付機関		
(12) 確認・計画通知、年月日及び番号	年 月 日		第 号				
(13) 計画変更年月日及び番号	年 月 日		第 号(変更内容は別紙)		第 号(変更内容は別紙)		
(14) 構造計算の方法	(X)ルート1-( )・ルート2-( )・ルート3		(Y)ルート1-( )・ルート2-( )・ルート3		限界耐力計算・時刻歴応答解析 その他( )		
(15)工事監理者検査事項	指摘事項・是正内容(別紙可)		工事監理者検査事項		指摘事項・是正内容(別紙可)		
(16) 工事監理者総合所見	(17) 工事監理組織 (各担当分野及び担当者名)		※ 受 付 欄				

(注意) 1 ※印のある欄は、記入しないでください。

2 代表となる工事監理者又は工事施工者の氏名(法人の場合にあつては、代表者の氏名)の記載を自署で行う場合においては、押印を省略できます。

鉄筋コンクリート工事施工結果報告									
鉄筋継手の試験検査結果(検査ロットごと)報告									
ロット NO.	鉄筋継手部位	使用鉄筋の種別	破断位置(本数を記入)	降伏点(N/mm <sup>2</sup> )					検査ロットの 合 否
		継手の試験方法	合 否(本数を記入)	引張強さ(N/mm <sup>2</sup> )					
				1	2	3	4	5	
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱・階梁	SD D 引張・非破壊	母( )継( ) 合( )否( )						合・否
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱・階梁	SD D 引張・非破壊	母( )継( ) 合( )否( )						合・否
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱・階梁	SD D 引張・非破壊	母( )継( ) 合( )否( )						合・否
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱・階梁	SD D 引張・非破壊	母( )継( ) 合( )否( )						合・否
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱・階梁	SD D 引張・非破壊	母( )継( ) 合( )否( )						合・否
	杭・耐圧盤・地中梁 階柱・階梁	SD D 引張・非破壊	母( )継( ) 合( )否( )						合・否
鉄筋継手施工業者									
鉄筋継手試験・検査機関名 注1									

コンクリートの試験検査結果(検査ロットごと)報告 注2											
ロット NO.	打設箇所	打設年月日		コンクリートの 種類	塩化物量 (kg/m <sup>3</sup> )	スランプ (cm)	コンクリート温 度(℃)	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	判定基準強度値 (N/mm <sup>2</sup> )		合 否
	打込容積(m <sup>3</sup> )	天候	気温	セメントの種類	測定器	空気量 (%)	供試体の 養生方法	品質基準強度 呼び強度 (調合管理強度)	材齢 (日)	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )②	
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2							合
				N・H・( )							否
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2							合
				N・H・( )							否
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2							合
				N・H・( )							否
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2							合
				N・H・( )							否
	杭・耐圧盤・地中梁 階立上り～階床			普・軽1・軽2							合
				N・H・( )							否
コンクリート試験機関名 注1											
生コン工場名											

試験・検査に伴う 業務を行った者(要 綱第2条第2項)	構造体コンクリート(工事施工者以外の場合は業者名を記入)			鉄筋の継手(同左)	
	コンクリートの採取	エア・スランプ試験 供試体製作	試験機関への運搬	供試体の採取	試験機関への運搬
	工事施工者	工事施工者	工事施工者	工事施工者	工事施工者

(注意) 1 建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱第4条による試験機関及び第8条による検査機関をいう。  
2 令74条に基づく構造体コンクリートの検査

\*1: 記載事項欄が不足する場合は別紙(任意)に記載して下さい。

鉄筋コンクリート造確認項目報告							
確認項目	確認内容	工事 施工 者 注	工事 監理 者 注	確認項目	確認内容	工事 施工 者 注	工事 監理 者 注
		確認 方法	確認 方法			確認 方法	確認 方法
1 全体	令3章8節・法37・令79			6 スラブ	令3章8節・令73・令77の2		
共通	a) 鉄筋の乱れ、踏み荒らし、波打ち、たるみの無の確認			スラブ筋	a) スラブ厚の寸法、鉄筋のピッチと径の確認		
	b) 柱、梁、壁、スラブの位置の確認				b) 主筋方向（短辺・長辺とベント配筋）と支持条件の確認		
	c) かぶり厚さの確認			定着・重ね継手	a) 定着の長さど方法（梁定着、隣接スラブ、段差スラブの定着）の確認		
	d) PC部材、Pca部材及び37条大臣認定を取得している部材及び工法の使用方法及び施工方法を確認				b) 片持スラブの定着と上端筋位置の確保（先端壁有・無）		
	e) 鉄筋の材料、種類、品質、形状及び寸法（共通）の確認				c) 継手位置と長さの確認		
2 地盤	令38・令93			補強筋等	a) 床スラブの出入隅部の補強の確認		
支持地盤㊟	a) 支持地盤の位置（GL- m）、地種類（ KN/m）等の確認	試本	試本		b) 開口部補強配筋の確認		
3 基礎	令38・令73・令77の2・令78				c) 階段部配筋と補強筋の確認		
種類㊟	a) 基礎の種類（ ）、くい工法（ ）、長さ、径、位置、くい頭の余盛り（PHCくい等のくい頭補強）、偏心による補強等の確認	試本	試本		d) スラブの受け筋の設置状況の確認		
ベース	a) 寸法、主筋の径・本数・位置の確認			7 壁	令3章8節・令73・令78の2		
地中ばり	a) 断面寸法、主筋の径・本数・位置・定着方法・継手の位置と長さ、あばら筋の位置・径・間隔・形状・開口位置・補強方法（評定品の仕様の）の確認			壁筋	a) 壁厚寸法、鉄筋の間隔・径・位置（土圧壁主筋・階段受け筋）の確認		
	4 柱	令73・令77			定着・重ね継手	a) 定着（梁、柱、スラブ、壁の定着）、長さ、方法の確認	
一般階主筋	a) 寸法、主筋の径・本数・配置方向を確認			b) 重ね継手の位置と長さの確認			
最下階主筋	a) 余長の長さど向きの確認			補強筋等	a) 開口補強の配筋の確認		
定着・継手	a) 各階止まり主筋の定着の確認			b) スリットの位置・形状及び配筋の確認			
	b) 主筋の継手位置の確認			8 その他	令3章8節・令37・令72・令74～76・令79		
ふかし・絞り	a) ふかし部の補強方法の確認			設備配管等	a) 設備配管（CD管等）の配管の確認		
	b) 絞りの位置及び補強の確認			ガス圧接継手	a) 圧接技量資格者の確認		
帯筋	a) 径、間隔、本数（中子筋共）及び形状を確認（仕口部を含む。）				b) 継手位置のずらしの確認		
	b) 主筋絞り部、折曲げ部の帯筋補強の確認				c) 形状の確認		
	c) 第1帯筋と柱頭拘束帯筋の位置の確認				d) 強度確認等の確認		
d) 帯筋のフック形状、主筋との緊結の確認			特殊鉄筋継手		a) 認定、評定工法の確認		
5 はり	令3章8節・令73・令78			b) 継手位置の確認			
はり主筋	a) 寸法、径、本数及び位置の確認			型枠及び既存打設部分状況の確認	a) 型枠及び支柱の締付け、清掃状況の確認		
	b) 中吊り筋の間隔の確保、長さの確認				b) 打込み欠陥部の有無及び補強の確認		
定着・継手	a) 主筋の定着位置、長さ及びカットオフの位置・長さの確認				c) 基礎、柱、梁、床板、壁の体寸法の確認		
	b) 重ね継手の位置と長さの確認				d) 型枠支柱存置期間の確認		
	c) 梁筋出隅部の末端フックの確認				e) コンクリート打設後の養生の確認		
ふかし・開口補強	a) ふかしの補強方法の確認				f) コンクリートの調合及び圧縮強度の確認		
	b) 開口位置、補強方法（評価品の仕様の確認）の確認			㊟：試験ぐい(試)と本ぐい(本)それぞれについて、記載する。			
あばら筋	a) 本数（中子筋共）と間隔の確認			[提出書類]	[提示書類] (後日、返却します。)		
	b) 第1あばら筋の位置、小梁交差部のあばら筋を確認			・特殊工法施工報告書	・ぐいの施工結果報告書・コンクリート調合報告書・鋼材ミルシート等		
	c) あばら筋のフック、主筋との緊結を確認				・各種試験結果報告書		
補強筋	a) ハンチ付き梁の吊り上筋部分のあばら筋補強の確認				・写真（配筋施工状況、各試験体採取時、構造スリット施工状況）		
	b) 腹筋（ねじれ補強）の径、本数及び幅止めの間隔を確認						
片持梁	a) 主筋の定着、あばら筋の位置、上端筋の納まりの確認						

(注意)確認方法 A：工事現場で目視により確認したもの  
 B：工事現場で検査機器を用いて計測検査したもの  
 C：報告(工事監理者の場合は施工者による報告、検査機関の場合は工事監理者による報告)により確認したもの  
 D：工場等で検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの  
 E：第三者機関等が検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの  
 F：工事監理者（構造担当：会社名 氏名）が直接確認したもの  
 施工者及び工事監理者がAからFまでの確認方法を参考に記入する。また、配筋工事等の重要項目については、表紙の工事監理組織欄に構造担当者が記載されている場合で構造担当者が直接確認したものについては、A+F、B+F、A+B+C+F E等と記入する。